

# 約 2 万 年 前 の ね!!

日本だよ。  
ここは  
した?  
びつくり



この時代は  
大型ほ乳類が  
まだ生き残って  
いたんだ。

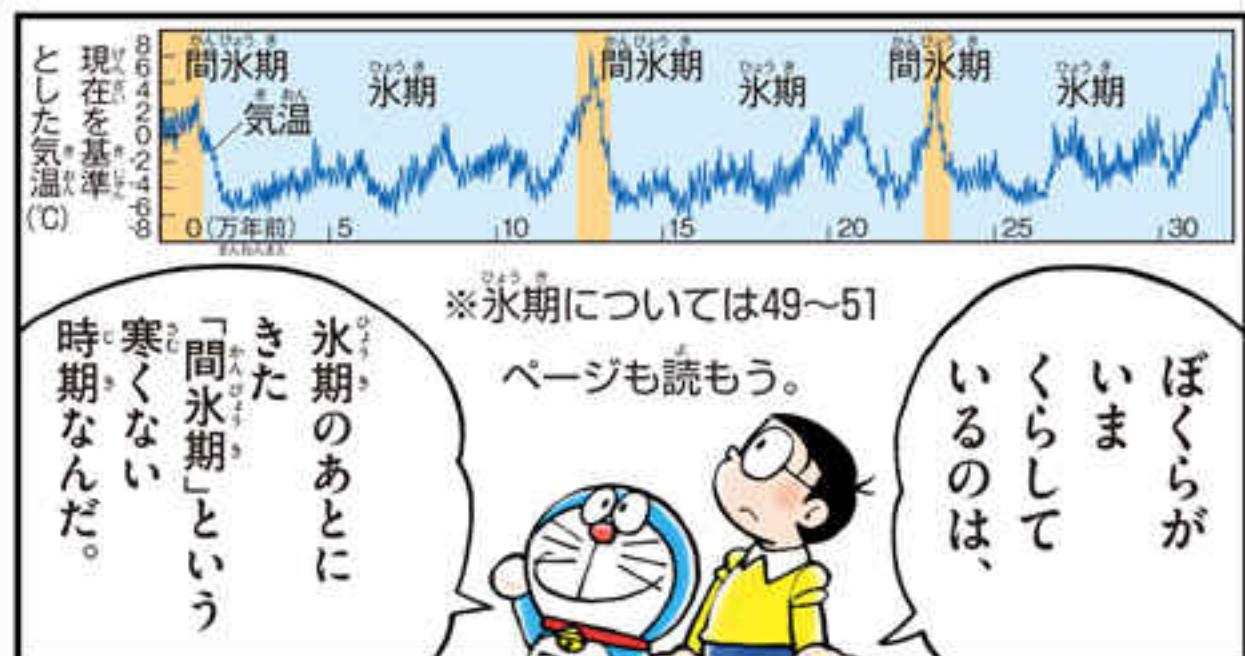
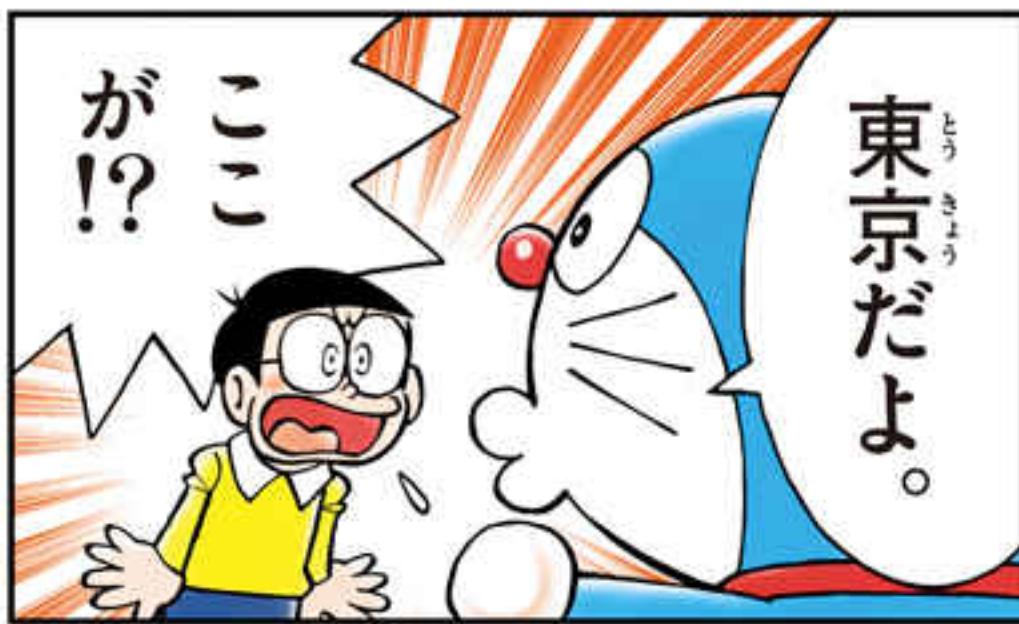


恐竜はもつと昔の  
絶滅しているかわりに、  
約6400万年前に

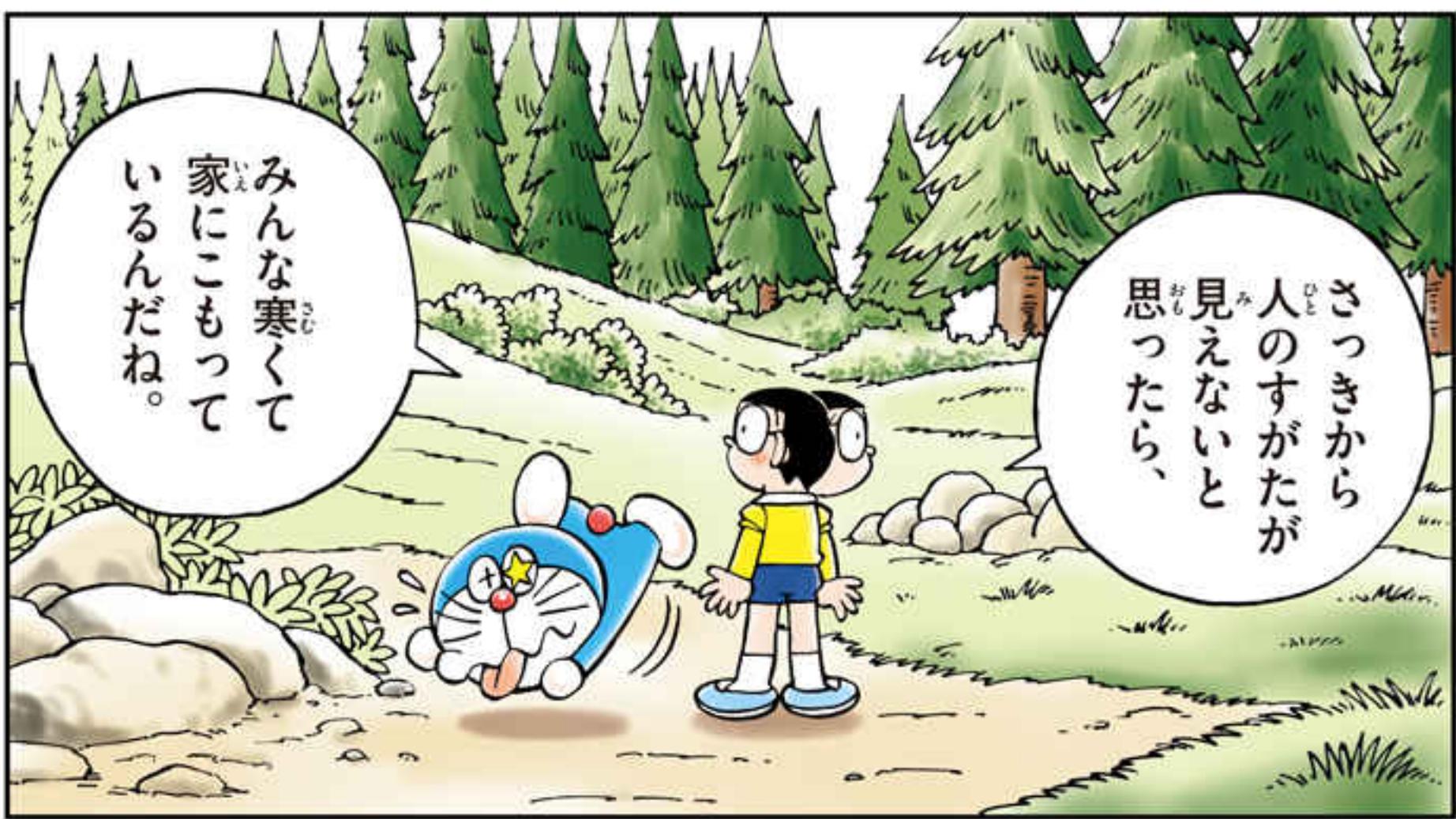
ナウマン  
ゾウだね。

だゾウ  
だ…。





参考：国立極地研究所2006「南極大図鑑」（小学館）



國府型  
(近畿・瀬戸内地方)



茂呂型  
(関東・中部地方)



杉久保型  
(東北・中部地方)

両側を加工して先をとがらせた

## 尖頭器

地域によって加工法が異なる

## ナイフ形石器

台形石器の後に出現し、

日本列島全域で流行した。

原石から破片を取って、

刃にする部分以外をくだいて作る。

←先端だったり根元だったり、  
加工される場所が地域によつて異なるのが特ちようだ。



切る  
・  
突き刺す

のように棒の先に装着してやりのよに使われたりもした。

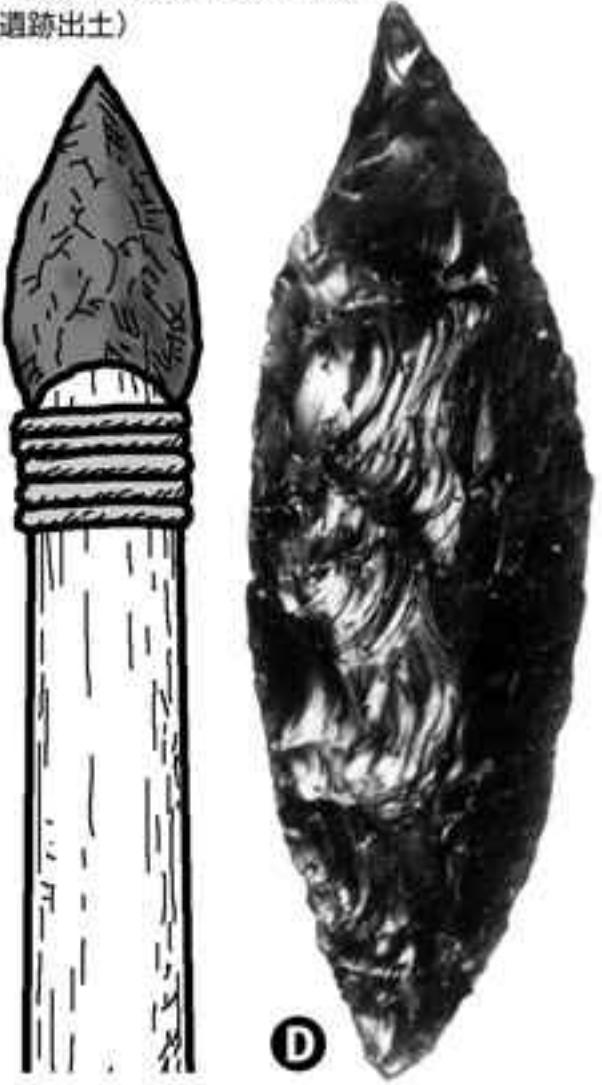
所蔵／Ⓐ羽曳野市教育委員会（大阪府・翠鳥園遺跡出土）、  
Ⓑ新潟県教育委員会（上ノ平遺跡出土）

旧石器時代の後半に登場し、おもにやり先として使われた。  
東北・関東・中部地方で特に多く作られている。ナイフ形石器と同様、地域によって形や製法が異なっている。

→尖頭器の中には突き刺す以外にも、切ったり削ったりに使われたらしきものもある。



→たいていは狩りのときなどにえものを突き刺すやり方に使われたと考えられる。



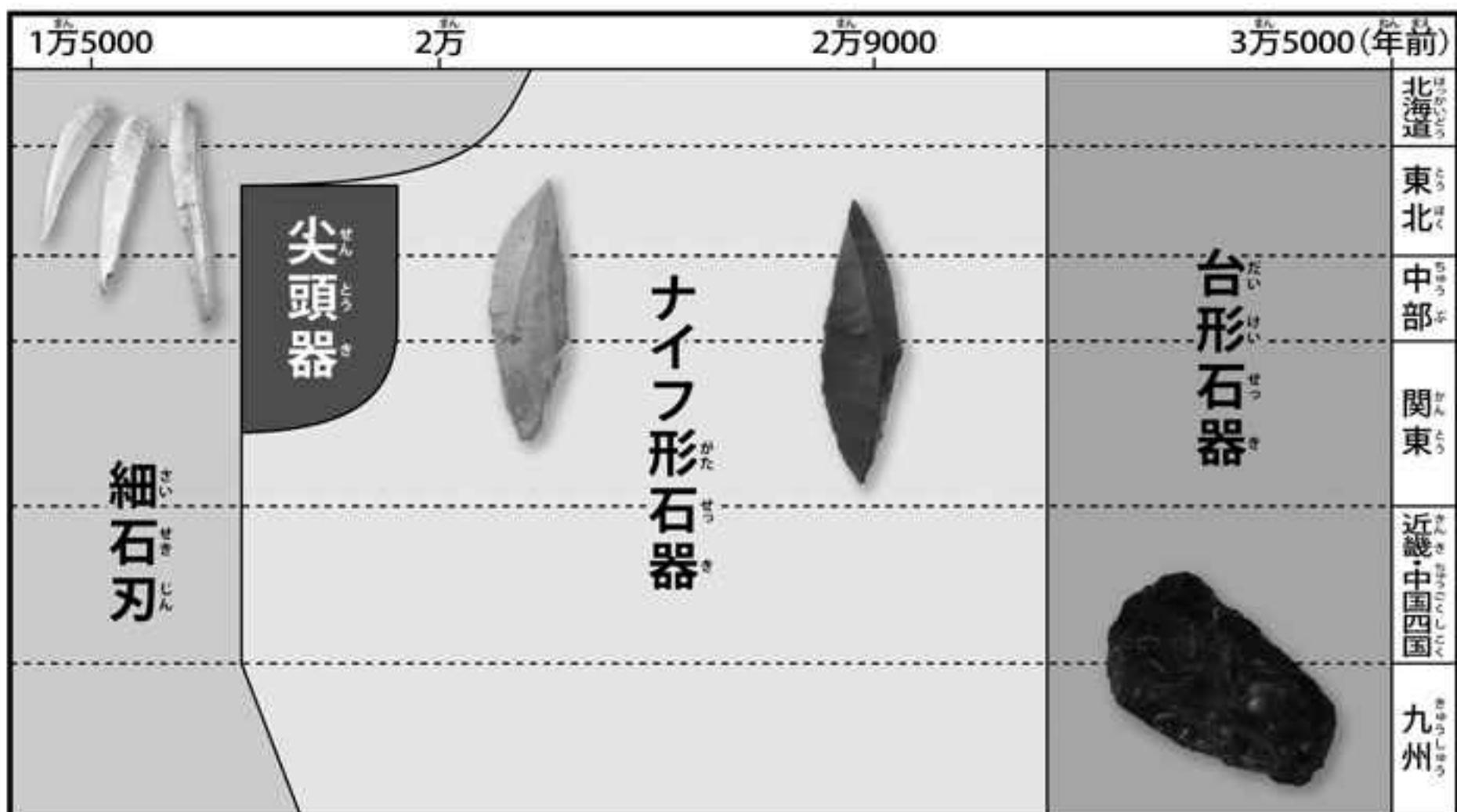
この2ページに登場する3種類は旧石器時代を代表する石器。いずれもおもに狩りに使われたものだけど、その主流はナイフ形石器から、少ない石材で多く作れて持ち運びやすい細石刃に進化していくんだ。

尖頭器は再利用されたり折れても削り具にしたらしいぜ。



# 旧石器時代の 石器の移り変わり

地域や時期によって差はあるけれど、台形石器→ナイフ形石器→細石刃というのが移りわりの大きな流れになっている。

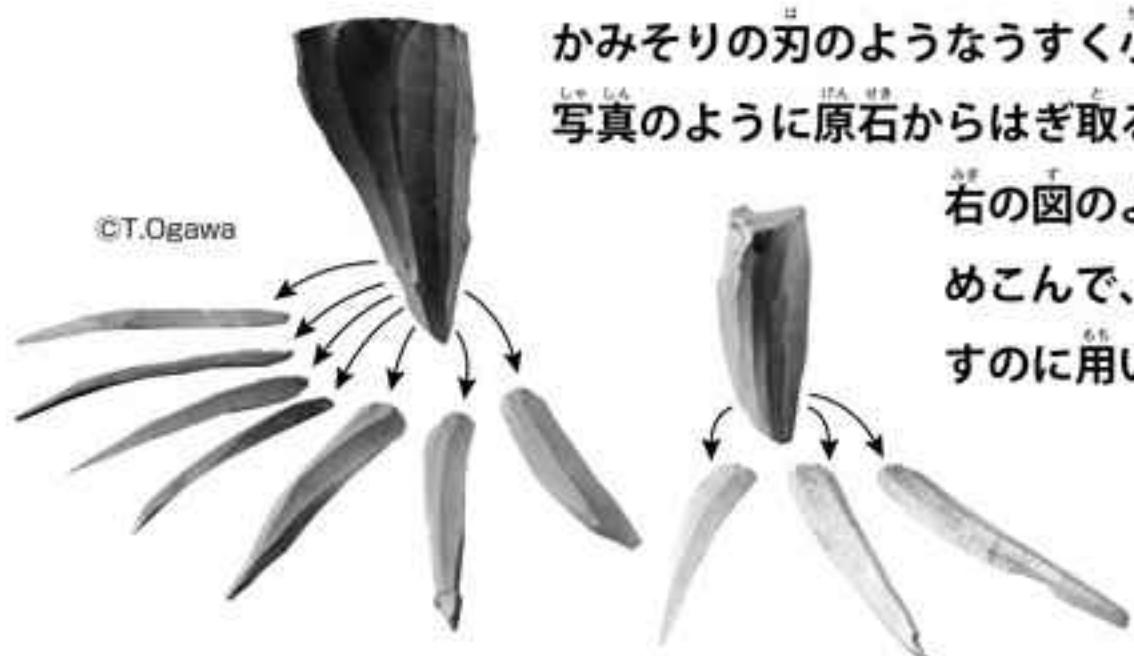


かみそりのかえ刃のように使った!?

## 細石刃

かみそりの刃のようなうすく小さな石器で、左写真のように原石からはぎ取るようにして作る。右の図のようにやり先にうめこんで、えものを突き刺すのに用いたようだ。

↓細石刃の技術には、北海道に最初に伝わったものもある。



↑持ち運びが楽なので、移動生活をする旧石器人には重宝した。

切る  
突き刺す

細石刃が切れなくなると、木や骨などでできただけでよいのも大流行した一因だった。



所蔵/©明治大学博物館（埼玉県・砂川遺跡出土）、©群馬県教育委員会（天引孤崎遺跡出土） 写真提供/©岩宿博物館

※★は絶滅した動物であることを示しています。

北海道に生息していた

## マンモス★

ゾウの直接の祖先ではないがそのなかま。寒冷な気候に強く、大陸の北の方から北海道に渡來した。

### ●生息時期

北海道では  
約1万7000年  
前まで

### ●肩の高さ

約2.5~3m



↑マンモスはかつて世界じゅうに広く生息していたが、北海道にいたのはこのケナガマンモスと考えられている。

所蔵／帯広百年記念館



ここからの4ページで紹介する大型ほ乳類は、陸続に大陸からやってきた。しかし、ヘラジカ、ヒグマをのぞいては、旧石器時代の終わりにはすべてほろんでもしまつていて。ヘラジカも現在は北半球の寒冷地域、ヒグマは日本では北海道にしか生息していない。これは人間に狩りつくされたというよりは、氷期が終わって気候が温暖化していくことに適応できなかつたからではないかと考えられているんだ。

旧石器人の食料としても貴重だったかもしない6種類をピックアップする。

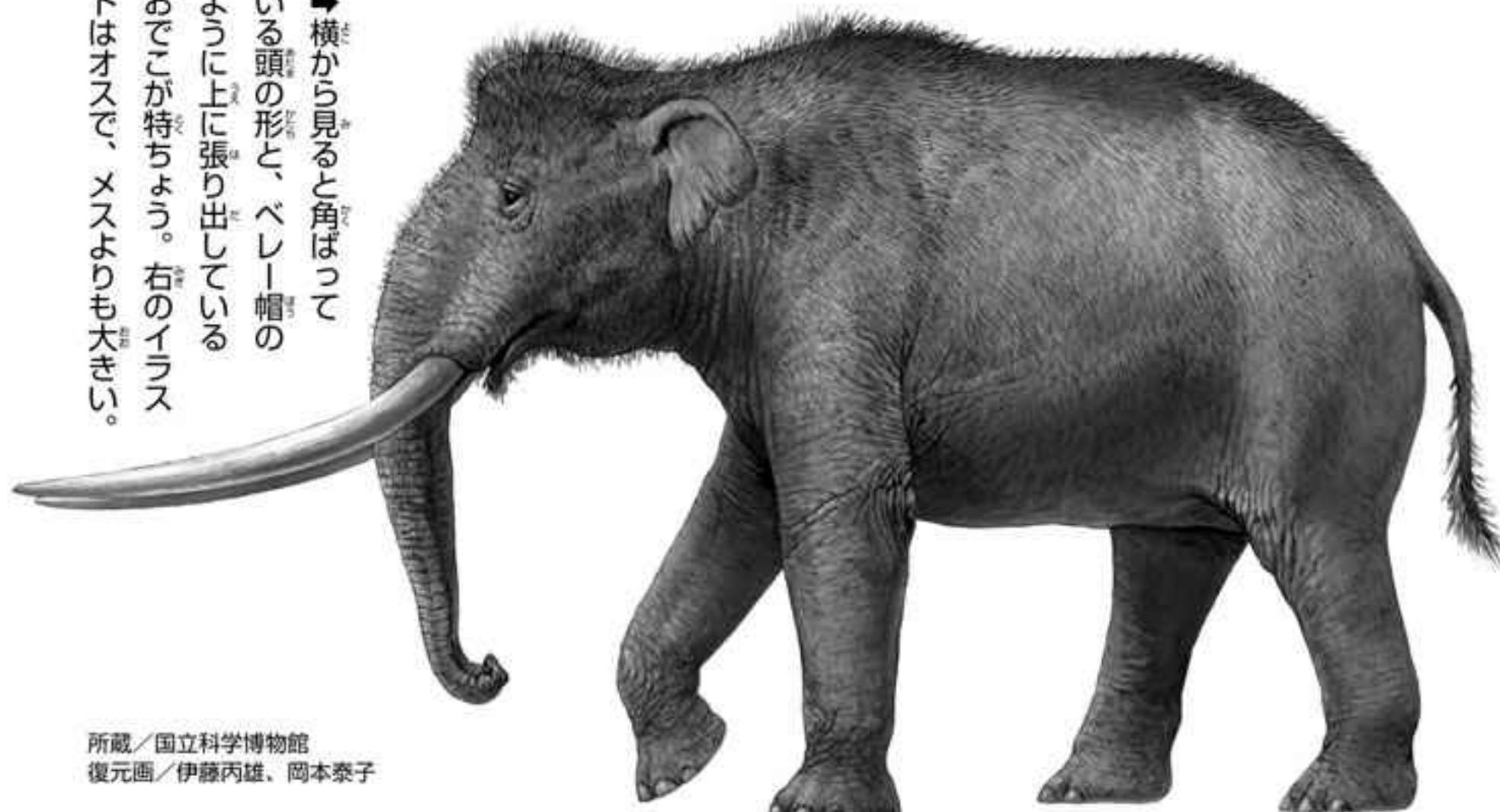


↑骨格標本の複製。ナウマンゾウとは異なり、牙が大きく丸まっているのが特徴。

所蔵／岩手博物館

# 旧石器時代の大形ほ乳類図鑑

トはオスで、メスよりも大きい。  
おでこが特徴的。右のイラス  
トは上に張り出している  
ように見えます。頭の形と、ベレー帽の  
横から見ると角ばつて  
いる。



所蔵／国立科学博物館  
復元画／伊藤丙雄、岡本泰子

### 日本の旧石器時代を代表する大型ほ乳類

## ナウマンゾウ★

大陸の温暖な地域から来たとみられる、  
アジアゾウに近いなかま。日本各地で歯や  
骨が数多く見つかっている。

→野尻湖畔の立が鼻遺跡(長野県)で見つかった、  
いずれもナウマンゾウの骨で作った道具かもしれ  
ないとされているもの。矢印のものは、なた  
のように使われたと考える人もいる。



●生息時期 約40万年前～約2万年前  
●肩の高さ 約2.5～3m



所蔵／野尻湖ナウマンゾウ博物館

←野尻湖(長野県)付近で見つかっ  
たナウマンゾウの足あと。この地  
域にかなり多く生息していたこと  
がうかがえる。

所蔵／野尻湖ナウマンゾウ博物館